

Internet world ネット時代に生きる

櫻井 哲朗

第10回

便利なクラウドサービス

41・0度で、最近の記録ではないようです。この記事が掲載される時期には暑さも一段落して過ごしやすい季節になっているといいますが、どうも気象庁の予測では9月になっても平年よりも高い気温の日々が続くみたいです。

前回の記事ではのんきにビアガーデンの話題などを掲載しておりましたが、こうも30度以上となる真夏日のさらには上の35度以上の猛暑日が続きますと体調を崩しかねません。実は、著者自身が暑さにまいてしまい今年はなかなか体調面で難しい夏となりました。

そんな暑さに悩まされている日々ですが、インターネット界にも別の熱さが猛威をふるっています。それは前回紹介しましたクラウドコンピューティングを使った

ここで取り上げるクラウドサービスは申し訳ありませんが著者の独断偏見で選ばせていただきました。ですので、読者のみなさまがよく使われているクラウドサービスがないようでしたら申し訳ありません。

利用できる機器に注目

まず、はじめにクラウドサービスを利用するにあたって注目する点について説明させていただきます。それは次の点です。

●いろいろなデバイス(機器)

において利用可能かどうか。

クラウドサービスの利点はインターネットさえつながっていれば、どこでも使える点です。ですが、なかなかパソコンを持ち歩くのは重労働です。著者自身はパソコンがないと仕事が進まないのが力業で持ち歩いています。なかなかの重量です。たしかに現在では軽いノートパソコンなら持ち運びは可能ですが、さすがに歩きながらノートパソコンを開くことはできません。

こうなると、理論的にはどこでも使うことは可能ですが実質的には不可能です。その不可能を可能

情報を効率的にストック 出し入れ、公開も機能的に

いやー今年の夏は暑かったですね。実際、今年の夏の最高気温が2007年8月16日に岐阜県多治見市、埼玉県熊谷市で記録した4

0・9度を抜いて観測史上トップになったようです。ちなみに、最低気温は1902年1月25日に北海道旭川市で記録したマイナス

面ばかりに焦点を当ててきました。そこで今回は、いま提供されている各種のクラウドサービスについてご紹介させていただきます。

にするためには、他のデバイスにおいて利用可能であるかが深く関わってきます。ここで他のデバイスとは、例えばiPhoneやAndroidのスマートフォンだったりiPadなどのタブレットPCだったりやを想定しております。

これらの機器が使えるのであれば、それこそ歩きながらでも利用が可能となります。このような理由から提供されているクラウドサービスにおいて、それを利用できる環境が他のデバイスでも整っているかそうでないかで利用の幅が大きく違ってきます。新しくクラウドサービスを利用される際には、この点について注意してみてください。

ストレージ系サービス ファイルの管理・保存

それでは、まず始めにストレージ系のクラウドサービスについてご紹介したいと思います。これらはオンラインストレージとも呼ばれております。オンラインストレージとは、あらかじめ割り当てられたサーバー上の記憶領域にインターネットを通してファイルをアップロードし保存・管理するシス



図1



図2

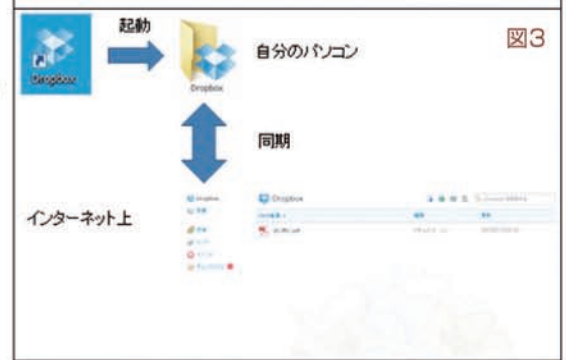


図3



図4

テムです。

もう少し簡単に説明しますと、インターネット上にファイルを保存・管理するシステムです。そのため、インターネットに接続できる環境であれば、どんな場所・端末からでもファイルを見たり変更したりすることができます。ここでは「Dropbox」「SugarSync」の2つのオンラインストレージについてとりあげさせていただきます。

Dropbox (図1)

無料プランは2GB

Dropbox(ドロップボックス)は2008年ごろからスタートしたオンラインストレージサービスです。無料プランがあり、メールアドレスなどを登録することにより2

GBの容量を使うことができます

(図2)。また、お友達を紹介したり、クエストをクリアしたりすると増設の容量をプレゼントしてくれます。ちょっとした遊び心または以前紹介したゲーミフィケーションを取り入れた作りで利用者を増やす試みがあります。

登録するとインターネット上にページが表示され、そこにファイルをおいておくことができます。専用のソフトをインストールするとパソコン上に「Dropboxフォルダ」が作られ、そこにおかれているファイルを自動でインターネット上に保存してくれるようになります。わざわざインターネットを使ってファイルを管理する手間を省いてくれます(図3)。またiPhone

iPad、Android用のアプリが提供されており他の携帯端末からも利用可能です(図4)。

SugarSync (図5)

変更が自動的に反映

SugarSync(シュガーシンク)はDropbox同様のオンラインストレージサービスです。機能としてはDropbox同様の機能が備わっており普通に使うのであれば、どちらを使ってもそれほど違いはありません。少し前まではDropboxはシンプル、SugarSyncはDropboxと比べると少し複雑といったイメージでしたが、いまではSugarSyncも分かりやすくなり使いやすくなったかと思えます。

SugarSyncは無料(使用)とも

できます。無料プランに申し込むにはメールアドレスなどを登録する必要があります。全ての登録が終わりますと5GBの容量を使うことができます。

専用ソフトのインストールにより、パソコン上とインターネット上の保存領域が自動で同期され、どちらか一方の変更が自動的に反映されるようになります(図6)。

またお友達紹介で500MBプレゼントやモバイル用アプリの導入で125MBプレゼントなどのキャンペーンも行っております。SugarSyncとDropbox同様にiPhone・iPad・Android用のアプリが用意されています(図7)。

無料の容量も集めれば

他にもGoogleが提供する「Googleドライブ」、マイクロソフトが提供する「SkyDrive」、Yahoo!が提供する「Yahoo!ボックス」などがあります。これらの無料で使える容量は表1のようになっています。ただし1つひとつの無料で使える容量は小さいように

無料の容量	
Dropbox	2GB
SugarSync	5GB
Googleドライブ	15GB
SkyDrive	7GB
Yahoo!ボックス	5GB

表1: 各社のオンラインストレージサービス

感じます。そこで、これらを横断的に管理するソフトやアプリも登場しており、これらの無料の容量をあわせて使うことで大容量の記憶領域をタダで利用することが可能です。まさに塵も積もれば山となる理論です。

特徴的な3つの使い方

またオンラインストレージの特徴的な使い方として次の3つがあげられます。

- バックアップ
- 共同で使う
- 公開する

同期させれば安心

まず始めの「バックアップ」について説明させていただきます。なかなか実際に体験してみないと実感がわかないですが使っているパソコンが壊れてしまうことがあります。そのときに大事なデータを失わないように定期的なデータのバックアップが推奨されています。ですが、著者自身もそうですが、このバックアップをよく忘れ



図6

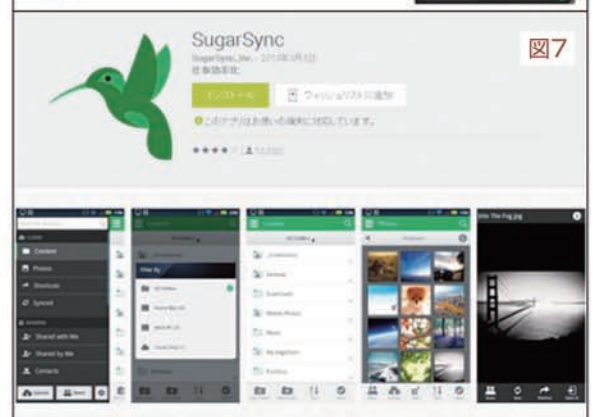


図7

てしまいます。

そこで、大事なファイルが入っているフォルダをつねにオンラインストレージと同期させることでインターネット上に保存する意識せずともバックアップが行われるようになります。またパソコンを買い換えたときのデータの移行の際にもオンラインストレージは有効に使うことができます。

共有フォルダを設定

次に「共同で使う」ですが、これは「Dropbox」や「SugarSync」では登録者同士で共有フォルダを設定でき、特定のグループで同じフォルダを見たり、その中にあるファイルを変更することができます。

著者自身、実際に使うまでこの利便性をなかなか実感できなかったのですが、大量のファイルをやりとりしようとするときにその利便さを体験することができました。

例えば卒業アルバムやゲームを作るようなときには大量のファイルを複数人で管理する必要があります。このようなときは、メールの添付ファイルでは限界があり、また面倒でもあるので、この共有フォルダが大変活躍した覚えがあります。

多くの人に配りたい時

最後に「公開する」について説明させていただきます。先ほどの共有フォルダの設定は「Dropbox」



や「SugarSync」の登録者であるならばファイルを見ることができました。ですが、登録者以外は閲覧することができません。このように多くの人にファイルを配りたいときに使う機能が公開機能です。「Dropbox」や「SugarSync」ではファイルのリンクを作成することができ、設定をすることによりインターネット上で誰でもファイルをダウンロードすることができます。

例えば、会社のパンフレットや商品説明資料をお客様に配りたいときに、わざわざ「Dropbox」や「SugarSync」に登録せずともインターネット上に置き閲覧できるようにになります。

著者自身授業などで資料を全員に配付する際、この機能を用いて学生自身にダウンロードさせて配付することがあります。こうすれば、わざわざ印刷する手

表2：無料アカウントとプレミアムアカウントを比較(EvernoteのHPより)

	スタンダード	プレミアム
サービス利用にかかる費用	無料	¥450/月 または ¥4,000/年
全プラットフォーム用Evernote アプリへのアクセス	○	○
プラットフォームに依存しない同期	○	○
画像内文字認識	○	○
ノートの総容量	制限なし ただし、1ヶ月にアップロードできる容量は60MBまで	制限なし ただし、1ヶ月にアップロードできる容量は1GBまで
Evernote メールアドレスを利用したノート作成	一日に 50 通まで	一日に 250 通まで
ノート更新履歴へのアクセス	×	○
ノート1つの最大容量	25MB	100MB
ノートに添付可能なファイル形式	制限なし	制限なし
ノートブックの共有	読み取りのみ	読み取り・編集共に可能
サポート体制	スタンダード	プレミアムサポート
セキュリティ	SSL 暗号化対応	SSL 暗号化対応
優先的な画像認識プロセス	×	○
広告の非表示	×	○
オフラインノートブック (iOS/Android)	×	○
PIN ロック (iOS/Android)	×	○
PDF ファイル内の検索	×	○
Office ファイル内の検索	×	○
関連ノートの表示 (Mac)	×	○
Evernote Hello: 名刺スキャン (iOS)	現在お試し提供中	○
Evernote Clearly: テキスト読み上げ (Chrome)	×	○

るのに便利なメモ系クラウドサービスです。ここでは、そのなかでも有名な Evernote (エバーノート) を取り上げたいと思います。

Evernote を使うためには図8にありますがHPから専用ソフトのインストール、そしてメールアドレスなどを登録することによってアカウントを作成すれば無料で使うことができます。

主に文章の保存と管理

このEvernote (エバーノート) の使い方について説明させていただきます。専用ソフトを立ち上げると図9の上段のような画面、インターネット上でログインする場合は図9の下段のような画面を操作することで使用します。見てもらうとわかるのですが、ほとんど作りが同じです。

またオンラインストレージサービスと同様にパソコン上にあるデータとインターネット上にあるデータが自動で同期してくれます。

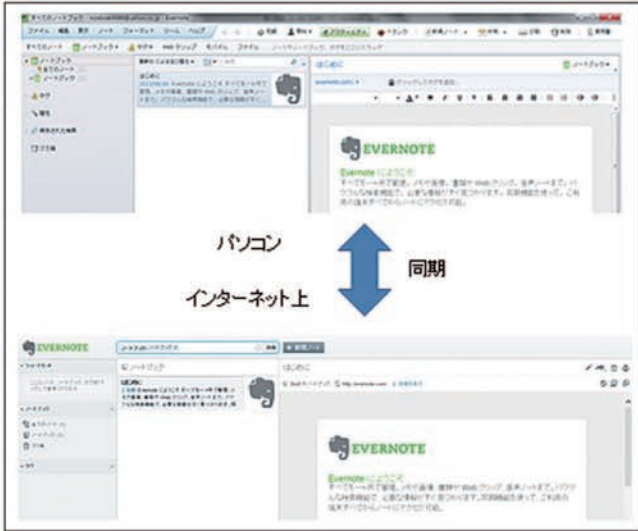
Evernote 専用ソフトの導入を

次にご紹介させていただくのは、日常のちょっとしたことを保存す

メモ系クラウドサービス

Evernote

図9



では、これに何を保存するかというところ、おまに文章などのドキュメントを保存していきます。そして、それらを管理する個人向けドキュメント管理ソフト、それがEvernoteです。

保存は「ノート」と呼ばれる単位でひとつひとつのドキュメントが保存され、それら「ノート」が集まって「ノートブック」と呼ばれるフォルダに入れることができます。さらに「ノートブック」は「スタック」にまとめることができます。イメージとしては、「ノート」が集まった「ノートブック」が本であり、「スタック」がそれらを集めた本棚のような感じですよ。

写真や表ももちろん

さて先ほど、保存するのは文章などと書きましたが、文章は文字のみで構成されているものだけでなく、写真や表が挿入されているものも保存することができます。さらにそこにメールの添付ファイルのようにWordファイルやExcelファイルまたはPDFファイルや画像ファイルなども添付することができます。ですので、ファイル管理という目的でもあわせて使うことができます。

著者としては、いままで残してきたアイデアや日々の気づきや思ったことのテキストファイルで個別に保存していたのですがEvernoteを使うことで、それらを一括して保存・管理することができるようになりました。お陰様でデスクトップが少しはスッキリしました。

検索つきのスクラップ

また、同HP上において「Evernote Webクリッパー」というソフトが提供されています。これは、HPの情報ボタン一つでEvernoteに

移してくれるソフトです。気になったページや記事があったときなど、全てEvernoteに保存しておけばEvernoteには検索機能がありまので、あとで探す際に非常に便利になります。これは新聞や雑誌などの記事を切って貼り付けるスクラップブックに近い使い方になっております。実物のスクラップブックとは違い検索機能があるのが大きな強みになります。

そのうえ「タグ」と呼ばれる付箋を各ノートにつけることができ、これを使って分類ごとに分けることも可能です。必ず作成された日時が保存されておりますのでノートを時系列的に並び替えることもできます。このようにEvernoteを使えば、いままで行ってきた情報の収集・管理がより便利に行うことができます。

Googleは展開中

総合的なサービス特徴

いままでは単一のクラウドサービスについてご紹介させていただきました。ここからは総合的なクラウドサービスについてご紹介させていただきます。クラウドサービスを総合的に提供しているところ

ろといえますと、もっとも有名なところはGoogleではないでしょうか。Googleが提供しているクラウドサービスを一部挙げますと

- Gmail・・・メールの管理
- Googleカレンダー・・・予定やイベントの管理
- Googleドキュメント・・・文章・表計算・プレゼンテーションを作成
- Picasa・・・写真の管理・共有
- Googleドライブ・・・オンラインストレージ

などなどとても多くのものがあります。

カレンダーの使い分け

著者自身、初めて使ったクラウドサービスはGoogleのものだったような気がします。いまでもGmailを使っています。いろいろなところで作ったメールアドレスに送られてくるメールを一旦Gmailに送ってもらうことでメールの一括管理に利用しています。またGoogleカレンダーは、いまだに予定を管理するのになくてはならないものになっています。スマートフォン端末からでも利用可能なため、とても重宝しています。

特に筆者は字が汚いのでなかなか手帳に書き込んだ予定をあとで見返す気にならないといった問題がありました。ですがGoogleカレンダーなら整った書体で見ることが出来ます。また予定の変更も実物の手帳と違い消したり二重線で取り消したりといった手間が省け、単純にデータを移動するだけです、とても便利です。

他の特徴的なカレンダーの使い方としては複数のカレンダーを使い分けることが出来ます。例えば、プライベート用のカレンダーと仕事のカレンダーを作ることができ、これを同時に表示することも片方だけ表示することもボタン一つで切り替えることが出来ます。付属のToDoリストを使って仕事の締め切りもカレンダーに書き込むことができます。この記事の締め切りもToDoリストに書き込んでカレンダーで表示しているのですが、いつも遅くなってしまう担当者様すみません。

表示機能と汎用性が

これらのクラウドサービスはGmailのアカウントがあれば全て無料で使用することができます。

ですので、わずらわしいIDやパスワードの管理などとは無縁です。また、これらのサービスに共通して使える機能としてGoogleが持つ高度な検索機能があります。

ここで特にご紹介したいのがオンラインストレージの「Googleドライブ」です。「Googleドキュメント」などで保存したデータも、この「Googleドライブ」に保存されます。またパソコン内部で作成したデータも保存することが出来ます。そして、とくに特徴的なのがあらゆるファイルを表示する機能を有しています。

Microsoft Wordで作成したデータ(.doc)はそのソフトがないと基本的には中身を見ることができません。ですが、「Googleドライブ」を使えば見ることが出来ます。これはクラウド上でデータを再生し、その再生したデータをブ

ラウザ上に送ることによって実現しています。この機能によって、たとえば作成した会社のパソコンにはソフトがインストールされているけれども自宅のパソコンやiPhoneなどのスマートフォン端末では見ることができないといった不具合を解決してくれます。

それでも注意は必要

賞味期限が短い恐れ

最後になりますが、今回の記事は賞味期限がちよっと短いですが注意して下さい。ここでご紹介させて頂いたクラウドサービスが2、3年後やそれ以降に提供されているかについては申し訳ありませんが著者には予測不可能です。インターネットの世界では我々が暮らす世界よりも流行のサイクルが早い傾向にあります。そのため、ここに書いてある内容も2、3年後には時代遅れとなる可能性もあります。

とくに、このようなクラウドサービスや大きい枠組でのインターネットサービスは見込み利用者数に対する費用対効果の問題や新たなサービスの登場などいろいろな影響によりサービスの提供を中止

する場合があります。

消えたGoogle Reader

例えば、Googleが提供していた「Google Reader」が最近2013年7月1日にサービスの提供を終了しました。この「Google Reader」はWebサイト自体にアクセスせずとも最新の概要を見ることが出来るサービスで多くのWebサイトの記事などを見る際に重宝されていたサービスでした。ですが、利用者数の減少に伴いサービスの終了が決定しました。一昔前のクラウドサービスの本を見ますと「Google Reader」は、よく取り上げられていましたが現在では、このサービスを使うことはできません。

このようなことが起こりえますので、この記事を大事に保管して2年後や3年後に再び読まれる際にはサービスの提供に注意してください。また、クラウドサービスを利用する際においても、このサービスはいつか利用停止となるかもしれないということを頭の片隅に置いておき、いつでもデータの退避や移行ができるように準備をしておくこと安心かもしれません。

さくらいてつろう

中央大学大学院理工学研究科を卒業し、専攻は統計学。コンピュータなどによって計測される大量のデータをまとめる多変量解析の研究。現在は、諏訪東京理科大学共通教育センター講師。東京都出身、30歳。